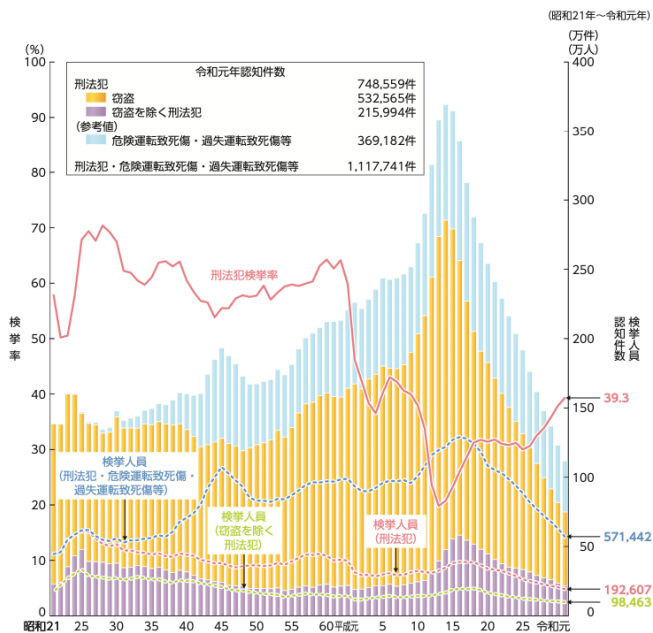


- ・死刑存置論と廃止論の争点 1・2・3
- ・イマヌエル・カントとチェーザレ・ベッカリーアの死刑についての論争
- ・日本社会と犯罪推移

1-1-1-1 図 刑法犯 認知件数・検挙人員・検挙率の推移



注 1 警察庁の統計による。
2 昭和30年以前は、14歳未満の少年による触法行為を含む。
3 昭和40年以前の「刑法犯」は、業務上（重）過失致死傷を含まない。
4 危険運転致死傷は、平成14年から26年までは「刑法犯」に、27年以降は「危険運転致死傷・過失運転致死傷等」に計上している。

- ・日本の殺人率

1-1-1-2表 刑法犯 認知件数・発生率・検挙件数・検挙人員・検挙率（罪名別）

(令和元年)										
罪 名	認 知	件 数	発 生 率	検 査 件 数	検 査 人 員	検 査 人 員	検 査 人 員	検 査 人 員	検 査 人 員	
総 数	748,559	(-68.779)	593.3	(-53.1)	294,206	(-15,203)	192,607	(-13,487)	39.3	(+1.4)
殺 人	950	(+35)	0.8	(+0.0)	945	(+59)	924	(+88)	99.5	(+2.6)
強 盗	1,511	(-276)	1.2	(-0.2)	1,326	(-233)	1,604	(-128)	87.8	(+0.5)
放 火	840	(-51)	0.7	(-0.0)	658	(-44)	519	(-18)	78.3	(-0.1)
強 制 性 交 等	1,405	(+98)	1.1	(+0.1)	1,311	(+121)	1,178	(+90)	93.3	(+2.3)
以 前 準 備 集 合	3	(-)	0.0	(+0.0)	3	(-)	5	(-)	100.0	(-)
集 行	30,276	(-1,086)	24.0	(-0.8)	25,556	(-656)	26,377	(-245)	84.4	(+0.8)
暴 行	21,188	(-1,335)	16.8	(-1.0)	17,987	(-760)	20,105	(-669)	84.9	(+1.7)
脅 迫	3,657	(+159)	2.9	(+0.1)	3,155	(+141)	2,764	(+50)	86.3	(+0.1)
恐 喝	1,629	(-124)	1.3	(-0.1)	1,288	(-85)	1,538	(-133)	79.1	(+0.7)
恐 恐	532,256	(-49,576)	422.1	(-38.3)	180,897	(-9,647)	94,144	(-8,225)	34.0	(+1.2)
詐 欺	32,207	(-6,306)	25.5	(-4.9)	15,902	(-584)	8,843	(-1,116)	49.4	(+6.6)
横 領	17,254	(-2,717)	13.7	(-2.1)	14,065	(-2,629)	13,276	(-2,651)	81.5	(-2.1)
遺失物等横領	15,857	(-2,665)	12.6	(-2.1)	13,009	(-2,508)	12,359	(-2,531)	82.0	(-2.1)
偽 造	2,323	(-203)	1.8	(-0.2)	2,049	(+122)	1,088	(-69)	88.2	(-1.6)
偽 造 取 締	32	(+8)	0.0	(+0.0)	28	(+3)	52	(-)	87.5	(+17.7)
背 任	55	(-5)	0.0	(-0.0)	45	(-15)	51	(-12)	81.8	(-18.2)
賭博・富くじ	267	(+143)	0.2	(+0.1)	255	(+90)	452	(-150)	95.5	(-37.6)
強制わいせつ	4,900	(-440)	3.9	(-0.3)	3,999	(-289)	2,926	(+3)	81.6	(+31.1)
公然わいせつ	2,569	(-78)	2.0	(-0.1)	1,770	(+23)	1,464	(-40)	68.9	(+2.9)
わいせつ物頒布等	974	(-27)	0.8	(-0.0)	880	(-11)	564	(-50)	90.3	(+3.1)
公務執行妨害	2,303	(-72)	1.8	(-0.1)	2,261	(-44)	1,866	(-47)	98.2	(+1.1)
火 災	255	(+8)	0.2	(+0.0)	116	(+12)	95	(+3)	45.5	(+3.4)
住 居 侵 入	12,853	(-195)	10.2	(-0.1)	6,332	(-157)	3,456	(-93)	49.3	(-0.5)
製造物・人身売買	293	(-11)	0.2	(-0.0)	268	(-15)	235	(-22)	91.5	(-1.6)
製造物・身体受け	889	(-132)	0.7	(-0.1)	834	(-119)	745	(-119)	93.8	(+0.5)
器物損壊	71,695	(-6,676)	56.8	(-5.2)	8,582	(-556)	4,790	(-203)	12.0	(+0.3)
暴力行為等処罰	46	(-13)	0.0	(-0.0)	47	(-4)	56	(-6)	60.2	(+15.7)
その他	5,620	(+93)	4.5	(+0.1)	3,647	(+74)	3,490	(+269)	64.9	(+0.2)
(参考値)										
危険運転致死犯	666	(+453)	0.5	(+0.0)	666	(+53)	653	(+47)	100.0	(-)
危険運転致死傷等	368,516	(-44,840)	292.1	(-34.8)	368,516	(-44,840)	378,182	(-46,155)	100.0	(-)

- ・各国における殺人発生率

1-3-1-1表 各国における殺人の発生件数・発生率の推移

(2013年～2017年)

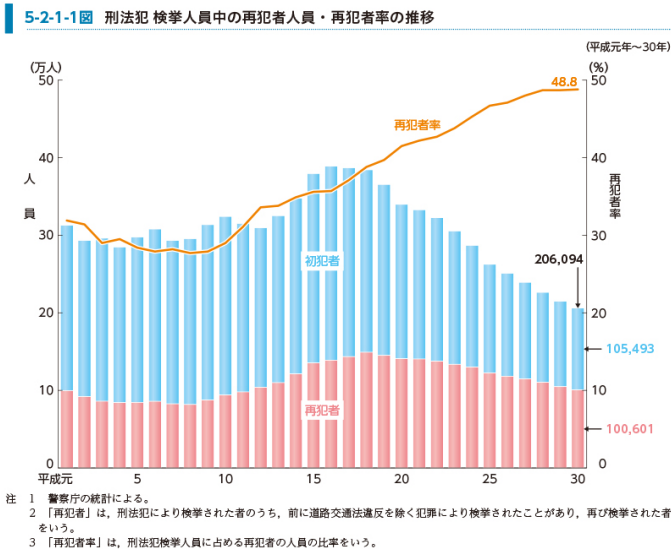
① 日本			② フランス		
年 次	発生件数	発生率	年 次	発生件数	発生率
2013年	370	0.3	2013年	777	1.2
2014	395	0.3	2014	792	1.2
2015	363	0.3	2015	1,012	1.6
2016	362	0.3	2016	874	1.4
2017	306	0.2	2017	824	1.3

③ ドイツ			④ 英国		
年 次	発生件数	発生率	年 次	発生件数	発生率
2013年	682	0.8	2013年	603	0.9
2014	716	0.9	2014	589	0.9
2015	682	0.8	2015	652	1.0
2016	963	1.2	2016	789	1.2
2017	813	1.0	2017	809	1.2

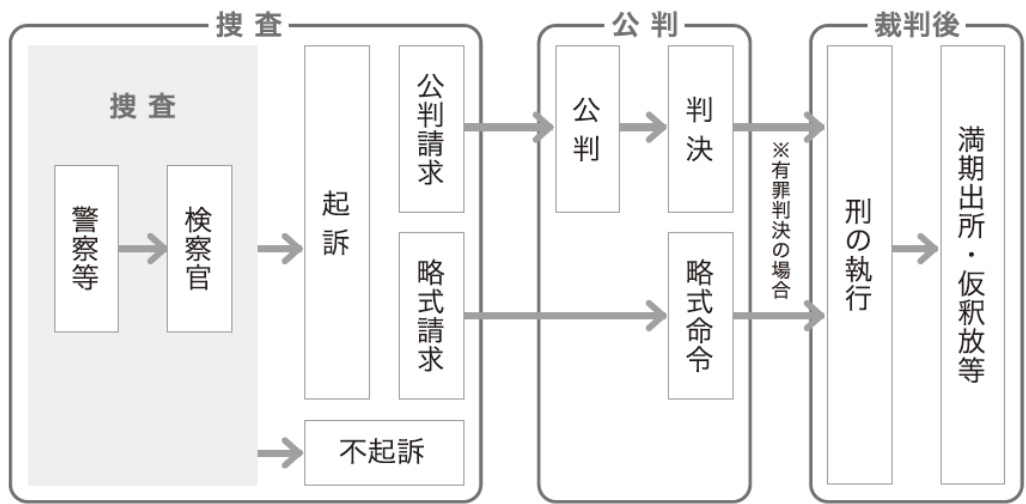
⑤ 米国		
年 次	発生件数	発生率
2013年	14,319	4.5
2014	14,164	4.4
2015	15,883	4.9
2016	17,413	5.4
2017	17,284	5.3

注 1 UNODC Statistics, Crime and Criminal Justice, Homicide rates (殺人) 統計 (令和2年 (2020年) 7月7日確認) 及び国連経済社会人口部人口統計 (World Population Prospects 2019) による。
 2 「発生率」は、前記人口統計に基づく人口 (毎年7月1日時点の推計値) 10万人当たりの発生件数である。
 3 「英国」は、イングランド、ウェールズ、北アイルランド及びスコットランドをいう。

・日本の再犯推移



・刑事手続きの流れ



・日本で死刑について関心が高かった永山事件

1968年10月から11月にかけて、東京都区部・京都市・函館市・名古屋市において、犯行当時19歳の少年だった永山則夫が起こした拳銃による連続殺人事件

— 1997年8月1日に東京拘置所において死刑が執行

「すなわち、ある被告事件につき死刑を選択する場合は、その事件については如何なる裁判所がその衝にあっても死刑を選択したであろう程度の情状がある場合に限定せられるべきものとする。」東京高裁第2刑事部（船田判決）・1981年（昭和56年）8月21日判決、事件番号：昭和54年（う）第1933号

・永山基準

- ▶ 犯罪の罪質
- ▶ 犯行の動機
- ▶ 犯行態様、特に殺害方法の執拗性、残虐性
- ▶ 結果の重大性、特に殺害された被害者の数
- ▶ 遺族の被害感情
- ▶ 社会的影響
- ▶ 犯人の年齢
- ▶ 前科
- ▶ 犯行後の情状

・判決の意味

「死刑が人間存在の根元である生命そのものを永遠に奪い去る冷厳な極刑であり、誠にやむをえない場合における窮極の刑罰であることにかんがみると、その適用が慎重に行われなければならないことは源判決の判示するとおりである。そして、裁判所が死刑を選択できる場合として原判決が判示した前記見解の趣旨は、死刑を選択するにつきほとんどいものの余地がない程度に極めて情状が悪い場合をいうものとして理解することができないものではない」

- ▶ 死刑は「窮極の刑罰」であり、全情状を総合的に見て死刑の選択に「ほとんど異論の余地がない」場合に科される例外的な刑罰